

授業概要

子どもの表現にかかわる発達を理解を深め、援助ができる実践的な力を習得する。現場で用いられる様々な表現活動を自身が楽しむことから始め、子どもたちへの適切な援助・配慮について指導する。具体的な指導場面を想定した模擬保育や指導案作成を通じて、子どもの多様な表現にも対応できる保育を構想する力を身につけるための指導を行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、造形分野の授業「幼児の造形表現とは」
第 2 回	幼児の発達と造形的な表現の理解（描く力、切る力、身体と動き）
第 3 回	造形表現の世界① 材料の研究
第 4 回	造形表現の世界② 道具の研究
第 5 回	造形表現の世界③ 紙芝居作り 1（構想・下絵作り）
第 6 回	造形表現の世界③ 紙芝居作り 2（製作）
第 7 回	造形表現の世界④ 紙芝居作り 3（発表）
第 8 回	幼児の発達と音楽的な表現の理解（聴く力、声、身体と動き、他領域との関連）
第 9 回	音楽表現の世界①言葉と表現活動
第 10 回	音楽表現の世界②身体と表現活動、模擬保育の構想
第 11 回	模擬保育の実践
第 12 回	音楽表現の世界③身近な環境と音・音楽（身近な素材を用いた音作り）
第 13 回	音楽表現の世界④-1 視覚的教材と音・音楽～場面に合う音・音楽の探求①（メディアの中の音・音楽）
第 14 回	音楽表現の世界④-2 視覚的教材と音・音楽～場面に合う音・音楽の探求②（ICT の活用）（担当：東元）
第 15 回	総合的な作品発表に向けての準備
第 16 回	総合的な作品発表と評価

到達目標

- ・幼児の様々な表現における発達段階の理解を深め、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- ・幼児の表現する意欲を十分に発揮させることができるよう、ICT 機器及び教材の活用法などを理解することができる。
- ・模擬保育とその振り返りを通して、指導上の留意点を理解することができるとともに、保育を改善する視点を身につけることができる。

履修上の注意

- ・活動への準備、音楽遊びの実践等グループ活動、事前準備等に積極的に取り組むこと。
- ・各課題を期限内に提出すること。

予習・復習

- ・授業での課題に向けての準備、準備物の持参を怠らないこと。
- ・活動の後には自身の振り返りを行い、授業資料はファイリングしておくこと。

評価方法

個人・共同の活動における持ち物の準備（20%）。作品・課題の期限内における提出の有無や発表の内容（40%）。学習態度、協調性（40%）

テキスト

各授業にて、適宜資料を配布する。

〈参考資料〉

- ・『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『小学校学習指導要領』
- ・『保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」』、梅澤実・森本昭宏 [編著]、創成社、2020 年 (ISBN : 978-4794480996)